(2)

事長のあいさつに続き、

「戦争と平

査会から借り受けた作

一緒に考え、いろい

大学図書館」と連動した 和―8年の記憶―@専修

-クイベントが9月24

馬塲学長、松木健一理

**「戦争」テーマに報道写真展&トークイベント** 

## 佐々木前学長に名誉教授称



学部設置、商学部の神田 ろな仕事をしてきた。新 え、コロナ禍と非常に難 移転、授業内容の組み替 事長職の時に学長に就任 今日の専修大学がある」 日髙義博総長が「私が理 していただいたことで、 しい時期だった。ご尽力 こねぎらった。

馬塲学長、佐々木前学長、松木理事長 日髙総長

95年同教授。2013~

ス 専

ャンパスで行われた。 職となった佐々木重人前 満了し、教授職を定年退 与式が9月24日、神田キ 学長の名誉教授称号記授 が専門。1983年商学 部助手、88年同助教授、 佐々木前学長は会計史 8月末で学長の任期を 一らから大きな拍手が送ら 学長を3期9年務めた。 れると、出席した学部 在職期間は42年5カ月。 16年商学部長。16年から 学長から称号記が手渡さ 授与式では、馬塲杉夫 一ていく」と語った。 場で、専修大学を見守っ る。今後は、名誉教授と いうこれまでとは別の立

を再開させたりしてい 話になった。ゼミの先生 時代から専修大学にお世 研究がおろそかになって 返った。最後に「現在は、 きた」と半世紀にわたる 育と研究に携わり、良い したり、趣味の鉄道模型 いた部分をアップデート 専修大学での日々を振り 研究生活を送ることがで に憧れて学究を志し、教 佐々木前学長は「学生

会の東郷吾朗さんと河原 をテーマに話し合った。 仁志さんを招き、「戦争」 写真展は、新聞通信調一元新聞記者の東郷さんと

館図書館で行われた。公 益財団法人新聞通信調査 日、神田キャンパス10号 日から10月4日まで神田 生田キャンパス、9月22 書とともに展示。7月に 図書館が所蔵する関連図 キャンパスで開催した。 トークイベントでは、

交わした。 河原さん、

るのはメディアだ」「国 さなければならない」 などの形で戦争を扇動す るのは国・政府」という 議論では、「戦争を仕掛け 意見に対して、「戦意高揚 民がチェック機能を果た 戦争の主体についての

マにしたト

どの声もあがった。 踏まえ、山田教授は「戦争 と課題についての議論を

「戦争」をテ

テーマに再構成し、本学 戦」 「冷戦」 「分断」 の4 品約30点を「戦争」「敗 写真展を見学す

健太教授、ジャーナリズ ムを学ぶ学生らが意見を 文学部の山田

|が大事だと感じた| 想を述べた。

と比べて静止画は 情報量が少ないぶ とにつながる」と、 責任に言及した。 ジャーナリズムの 戦争をさせないこ (文3)は、「動画 武藤柚夏さん

う話が印象的だっ る余地が多いとい ん、想像を働かせ

を読み取る能動的な姿勢 る際には、自分から何か た。報道写真を見



苅谷教授は野外調査を

神田·生田 を忘れないことが 苅谷愛彦文学部教授 日本第四紀学会

苅谷教授が学術賞

専修人の

本アルプスを中心とする 学術賞を受賞した。 025年日本第四紀学会 (環境地理学科)が、2 受賞対象の業績は

成過程に関する一連の研 高山地域における地形形

いることが認められ 数多くの成果を国内外の 学術雑誌などで発信して 同学会は、第四紀の

の地質時代)の自然、 58万年前から現在まで 根大学で年次大会に合わ 人類を研究。8月30 に合わ | 背負い世界へ。旅先での | 理学、社会学、人間学を日、島 | 代わりにバックパックを | の分野である。近年、心 環境、 (約 2 た。

う営み」。

「私を旅し、綴るとい

| 手にとって意味深いもの

経営学者という看板の

述する、質的研究の一つ

にまとめ上げ、分厚く記

せて表彰式が行われ た。

関連を検討してきた。研変動や過去の大地震との り・崩壊・土石流につい過去数十万年間の地すべ 究は地形学にとどまら 文化など多岐にわたり、 て基礎研究を進め、 が専門。山岳地における ず、山岳の生態系や生活 ベースとした地形環境学 気候 境界で息をする:

旅する研究者の自己 | りに綴る、渾身の自己エ

真摯かつユーモアたっぷ



蔡芢錫 著

エスノグラフィー じて文字データを集め、 スノグラフィー。 を研究対象として捉え、 とは、研究者が自分自身 主に「自己インタビュ 」と「自己観察」を通 自己エスノグラフィ

それを研究者自身と読み

理想と現実のはざまでも | はじめ、芸術など分野を 韓国で生まれ育ち、日本 振り返る道を拓いた。迷 者自身の多層的な歩みを がく若者との出会いが、 | 横断する研究領域におい に職を得て生活を営む著 O 円 一ても注目を集めている。 (新曜社・税込み352

悩み、変容する私を |経営学部教授。経営学。 著者(ちぇ・いんそく

ミュージカルの「現在」

うが参考になるよ」と助言をもら

学生の皆さんは授業やサークルやアルバイト

る可能性もあります。他者の失敗も、そして自分

まさに反面教師ですが、他者の失敗

くもちろん自分自身の失敗からも学べ

くは部活動やインターンなどで失敗ゼロ

は皆無ではないでしょうか。たとえばア

で自分に合わない仕事だと失敗したら、 自分に合った適性のようなものが見えてく

失敗もきっと大切な学びの機会。日々の生

(学生部委員

って必要以上に怖がらなくて良いのかもと

ヘタな授業にならないよう試行錯誤し

-変容するトニー賞 | っていることを初めて指 シカルの |評価する傾向が顕著にな

ながら今日も教壇に向かっています。

学べるかもしれま せん。そういえば、

ます。

ている。 たのかの背景をも解析し 摘した。なぜ、そうなっ 本で上演されたミュージ 「第2部・東京」は日

カルの劇評を集める。

小山内伸 著

羅する。我が国のミュー |ジカル観客数は演劇全体 ン」など現代の傑作を網 「スリル・ミー」「アラジ 「ロミオ&ジュリエット」

論じた評論集である。

第1部・ニューヨー

演されたミュージカルを

本書はこの15年間に初

曲を仔細に分析し、その | ュージカル劇評集は実に ェイ作品の物語構造と楽 | わらず、国内におけるミ ク」では、トニー賞作品 | の6割以上を占める最大 25年ぶりの刊行となる。 2970円) ジャンルであるにもかか (河出書房新社・税込み

行政機関などの被害報告資料など う」と締めくくった。

鈴木助教は、能登半島の歴史や地

登半島で地震の後に水害が発生した

形などを踏まえたうえで「過去に能

生のメカニズムなどについて解説し 地の営み」と題して、能登半島地震 災害地理学が専門の鈴木比奈子文学 の第27回公開講演会が8月9日、 と奥能登豪雨の被害の状況と災害発 **部助教が「地震がもたらす被害と大** テライトキャンパスで開催された。

目然科学研究所(阿藤正道所長)

震発生の になってしまった」と語った。 記録はあるが、2024年は地震・ 水害とも規模が大きく、大変な被害 解説

地

カニズ

自然科学研究所公開講演会

れで、高層の建物で揺れが大きくな 2秒以上の大きくゆっくりとした揺 地震動」で最も大きい「階級4」が 観測された。長周期地震動は周期が ンジを使って、建物の高さや揺れの 聴講者は実際に長さの違うスポ 月の能登半島地震では「長周期

種類による影響の違いを体感した。

崩れなどで被害を受けている様子が 地調査を実施。豊富な写真を示しな くのが、私たちにできることだと思 続くことは復旧に大きな影響があ いくつも確認された。「被災が長く った文化財も、12月の調査では土砂 は24年6月以降、3回にわたって現 で豪雨災害が発生。土砂災害が多発 の長期避難が続く中、9月に奥能登 を基に、被害の状況を追った。地震 た。文化財についても調査してお 能登のことを忘れず応援してい 豪雨災害直前の調査では無事だ 仮設住宅も浸水した。鈴木助教 被害状況や影響について解説

専修大学に着任して初めての研究室は、生田キ

スの1号館でした。その研究室に入ってま 生田緑地に面した窓をずっと開ける日が 流れてくる風の心地よさを感じ

方を過ぎると明かりに誘われてさまざま

びかう風景を見ていたら「これ、何の研究

と思いました。そもそも網戸なしに窓を開

ケティングではよく企業の成功事例が取り 上げられます。優れた例から成功のコツを学ぶの

逆に失敗事例こそ学びになると主張する声

賞を受賞したブロードウ

ていた私の失敗ですが、虫が飛びかうあの風

景は自然への好奇心もあって今でも忘れられませ

も勉強になりますが、なかなか難しいのは再現性

もあります。このような事をすると売上が減る、

企業活動のマーケティングが私の専 下界では見ないような大きい蛾など、

失敗もなかなか悪くない

現地調査の様子を報告する鈴木助教

分断など、新たな社会問

文学部教授。演劇研究。

著者(おさない・しん)

Qや異文化、格差社会や

大きく変容し、LGBT

一一賞が21世紀に入って

魅力に迫る。とりわけト

題をテーマとする舞台を